

柏島周辺域における海洋生物の保全・記録および社会・生涯学習について

柏島海洋生物生態研究会

代表 神田 優

高知県

はじめに

現代の大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動の定着は、都市への人口集中、経済活動の都市集中をもたらし、身近な環境問題から地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、土壌、空気、水の汚染などまで広がり、さらに現在はもちろん、将来の世代にわたり影響を及ぼし、世代間問題にまで発展してゆきつつあります。また、このままでは人類の生存基盤はもちろん、他の生物全体に影響することは明かです。

21世紀は環境の世紀、つまり自然と人間がいかに関係してゆくかを考える世紀だといえます。その為にはまず身近な環境を知り、正しく認識することが重要だと言えます。高知県大月町には全国に誇れる豊かな自然があります。この自然を正しく理解し、保全・保護に勤め、次世代を担う子供たちに残していく必要があります。

今日、生活の多様化、高齢化社会、余暇時間の増大などの社会的背景に生涯学習の必要性が高まってきました。生涯学習とは、一生を通じて自由に学習機会を選択して学ぶことで、学習にいきがいを見いだすことです。

我々はこの豊かな海をモチーフにして、一生を通じた生涯学習の機会を提供し、子供から大人までのすべての住民参加の下で環境教育に取り組んでいこうと考えています。その生涯学習および環境教育を行う場として自然を正しく認識するためには、自然史系博物館が有効であると思われます。

高知県は豊かな自然に恵まれているにも関わらず、それを活かすための自然史系博物館がほとんどありません。なかでもここ大月町には、他に類

を見ないほど美しい海があります。我々はこの美しい海を活かすべく、そのモデルケースとしての施設「黒潮実感センター」を海のフィールドミュージアムとして位置づけ柏島に設立し、海洋生物の研究と環境教育、環境保全、地域振興に役立てようと考えています。

昨年度は今まで行ってきた海洋生物の生息調査だけでなく、それらのすばらしさと大切さを多くの人に伝える啓蒙活動を実施すべく、柏島海洋生物生態研究会を改め、黒潮実感センター設立準備委員会を発足させ、環境教育や環境保全活動を通して海のフィールドミュージアムとしての「黒潮実感センター」設立に向けて地元住民や行政に働きかけてきました。

今回、公益信託タカラハーモニストファンドの助成をいただいたことで、これらの活動を行うことができたことを心から感謝いたします。お陰様で地元住民や行政の自然環境に対する意識も向上しつつあります。ずっと地元ですんでいてはわからない環境のすばらしさを、特に地元の住民にわかって貰い、自然環境の重要性を認識し、環境保全につなげたいと思います。

最後にこれらの活動を物心両面から支えて下さった、高知大学海洋生物教育研究センターの山岡耕作教授、愛媛大学理学部の柳沢康信教授、大月町立柏島中学校の田中農三校長に心より感謝申し上げます。

平成10年度活動・研究実績

活動報告

1.黒潮実感センター設立に向けての活動

- 1-1海洋セミナー（柏島改め）大月
- 1-2環境教育
- 1-3行政・関係諸機関への働きかけ
- 1-4視察
- 1-5環境保全活動

2.調査・研究

- 2-1魚類相調査
- 2-2アオブダイの左右性に関する研究

1-1海洋セミナー大月

8月17日～18日

大月町、宿毛市の各漁協、水産関係施設および
柏島のすべての住民に、黒潮実感センター構想の
説明文と第1回海洋セミナー柏島の案を配り歩く

8月19日

柴岡邦男 新大月町長に黒潮実感センターの構
想の説明をし、高知新聞社の取材を受ける

8月21日

黒潮実感センター構想と第1回海洋セミナー柏
島の案内が高知新聞に掲載される

8月22日

第1回 海洋セミナー柏島開催

柏島海洋生物生態研究会・黒潮実感センター設
立準備委員会主催
宝酒造協賛

於：柏島公民館 午後7時～9時

参加者：150名

テーマ：「造礁サンゴと魚のかかわり」（サンゴ
の死滅が及ぼす影響）

講 師：東京大学大学院農学生命科学研究科農学
国際専攻助教授 佐野光彦先生

テーマ：「黒潮実感センター構想について」

講 師：高知大学・高知医科大学非常勤講師
神田 優

NHKおよび高知新聞社、月刊ダイバー編集部
の取材を受ける

8月23日

午前6：45のNHKニュースで海洋セミナー柏島
の件が放送される

8月24日

第1回海洋セミナー柏島の結果が高知新聞に掲
載される

8月26日

佐野先生の感想と、第1回海洋セミナー柏島の
結果が高知新聞に掲載される

10月20日

高知新聞に第2回「海洋セミナー大月（柏島）」
参加者募集の記事掲載される

10月30日

第2回「海洋セミナー柏島」
黒潮実感センター設立準備委員会主催
宝酒造協賛

於：柏島公民館 午後7時～9時

参加者：60名

テーマ：「柏島の海中風景Vol.1」

講 師：高知大学・高知医科大学非常勤講師
神田 優

11月9日

第2回「海洋セミナー大月」
黒潮実感センター設立準備委員会主催
宝酒造協賛

於：大月町中央公民館

参加者：24名

テーマ「柏島の海中風景Vol.1、黒潮実感センター
構想について」

講 師：高知大学・高知医科大学非常勤講師
神田 優

11月11日

第2回「海洋セミナー大月」の結果が高知新聞
に掲載される

11月27日

高知新聞と朝日新聞で第3回海洋セミナー大月のお知らせが掲載される

11月30日

第3回「海洋セミナー大月」・高知大学公開講座

高知大学海洋生物教育研究センター主催・黒潮実感センター設立準備委員会共催

・宝酒造協賛

於：中央公民館 午後7時～9時

参加者：34名

テーマ「ホタテ貝漁業に生態学を生かす（調査・研究が漁業生産にいかに役立つか?）」

講師：北海道大学助教授 五島 先生

テーマ「黒潮実感センター構想について」

講師：高知大学・高知医科大学非常勤講師

神田 優

3月23日

第4回海洋セミナー大月のお知らせが高知新聞に掲載される

3月25日

第4回「海洋セミナー大月」

黒潮実感センター設立準備委員会主催
宝酒造、宿毛市・大月町水産理事会協賛

於：中央公民館 午後7時～9時

参加者：42名

テーマ「海洋生物間でのウイルスのキャッチボール」

講師：高知大学助教授 鈴木 聡先生

テーマ「黒潮実感センター設立準備委員会平成10年度活動報告」

講師：高知大学・高知医科大学非常勤講師

神田 優

1-2環境教育

4月27日

高知県環境教育研究会会長の森本博氏と環境学習および黒潮実感センター構想について意見交換

をおこなう

5月31日

「宿毛湾クルージング（宿毛湾再発見の旅）」
幡多地域ゼミナール館主催において「宿毛湾の魚たち」と題して講演兼ガイドをおこなう

6月6日

大月町立柏島中学校特別非常勤講師に委嘱される（環境教育担当）

（任期：平成10年6月6日～平成10年10月31日）

6月17日

大月町立柏島中学校において環境学習の講義をおこなう

第1回「柏島にすむ魚の生態」

6月24日

柏島中学校において環境学習

第2回「魚の性転換」

6月26日

宿毛高校大月分校の高校1年生を対象にプールでスノーケリングの講習をおこなう

6月28日

第36回大月町母親大会分科会において講演
テーマ：環境

7月3日

大月エコロジースクール（宿毛高校大月分校）で体験スノーケリングを指導する（エコロジーキャンプ場：尻貝地区）

7月4日

大月エコロジースクール・シンポジウム「くらし・環境・生涯学習」コメンテータとして参加

7月5日

大月エコロジースクール・シンポジウム「くらし・環境・生涯学習」の結果が高知新聞掲載される

7月13.14日

大月町立柏島中学校において体験学習会開催
白浜・竜が浜・後ろ浜でシュノーケリングを、浮桟橋から箱メガネを用いた魚の観察および釣りを

おこなう

7月15日

宿毛高校大月分校にて1-3年生合同で「柏島の海」と題して、魚の生態についての講演をおこなう

8月3日

大月エコロジースクール第2弾「釣りと採集魚の形態観察」で講師を務める

於：柏島湾内および柏島中学校

参加者：34名

8月5日

大月の夢と教育を語る会委員に委嘱される

（任期：平成10年8月1日～平成11年11月30日）

11月7日

特別講演：VTRをもとに「柏島の海中風景Vol.1」

於：宿毛高校大月分校文化祭

11月13日

大月町立柏島中学校において環境学習

5限目 「柏島の海中風景」のVTR

6限目 「柏島の環境について」の討論会（生徒と教員）

高知県教育センター研修指導部指導主事 宮崎雅也氏に「黒潮実感センター」構想の説明をし、その中で中学校における環境学習の経過を説明する（環境学習に参加）

11月17日

大月町小中学校校長会で講演

テーマ：「黒潮実感センター」構想と環境学習について

VTR「柏島の海中風景」とスライド「柏島の海洋生物」を用いて、「黒潮実感センター」構想を紹介し、資料を各校の全教員分用意し配布

於：柏島中学校

12月2日

柏島小学校全児童対象にVTR「柏島の海中風

景」を用いて環境学習をおこなう

12月8日

「柏島の海」と題した児童の感想文集を、柏島小学校から頂く

12月10日

宿毛小学校長 渡会好史先生ほかに「黒潮実感センター」構想の説明をし協力を要請する

1月28日

大月町立月灘・小才角小学校合同で全児童25人および父兄を対象に環境学習会をおこなう

内容：VTR「柏島の海中風景」と水中写真パネルをもとに海の生き物の解説をする

於：月灘小学校 1:30～3:00PM

2月4日

高知新聞に大月町・宿毛市の小中高校へ出張して行く、環境学習への取り組みが掲載される

2月6日

大月町立弘見小学校にて全校生徒を対象に環境学習をおこなう

内容については上記と同じ

於：弘見小学校 10:40～11:55AM

2月8日

四国電力宿毛営業所からの要請で社内研修の講師として、環境学習会で講演する

内容については上記と同じ

於：四国電力宿毛営業所 1:30～2:30PM

2月9日

宿毛市立田ノ浦小学校にて4～6年生対象に環境学習をおこなう

内容については上記と同じ

於：田ノ浦小学校 1:55～3:30PM

2月10日

宿毛市立宿毛小学校で5年生および父兄を対象に環境学習をおこなう

内容については上記と同じ

今回はマルチメディア装置を用いて宿毛市沖ノ島の母島小中学校とも、同時中継授業をおこなう

於：宿毛小学校 10:00～11:30AM

2月11日

読売新聞に宿毛小学校において行った、マルチメディアを用いた環境学習会の様子が掲載される

2月16日

大月町立橘浦中学校で生徒、教職員および地域住民を対象に環境学習をおこなう（開かれた学校作りの一環）

内容については上記と同じ

於：橘浦中学校 1:30～3:00PM

2月20日

大月町立柏島中学校に柏島の海の生き物の写真ギャラリー開設（開かれた学校作りの一環で柏島中学校と共同）

環境学習の一環で「柏島の海洋生物パネル展」において水中写真をもとに海洋生物の生態の紹介をする

於：柏島中学校 10:00～10:40AM

2月22日

大月町立中央中学校で生徒、教職員および地域住民を対象に環境学習をおこなう

内容については月灘小学校での講演と同じ

於：大月町立中央中学校 1:30～3:00PM

2月23日

宿毛高校大月分校にて環境学習の講義をおこなう

大月エコロジースクールの総括として、「大月町の自然環境について」と題してディスカッションを行う

於：宿毛高校大月分校 1:30～3:00PM

3月1日

大月町立柏島中学校の環境教育の体験学習において講師を務める

於：竜串海洋館（土佐清水市）→大阪海遊館（以布利研究所）→四万十トンボ自然館（中村市）

対 象：柏島中学校全生徒および教職員

3月-4月

大月町立柏島中学校の生徒とともに、卒業記念としての柏島の海洋生物の壁画（アクリルパネル）の制作に携わる

4月15日

壁画を校舎横の塀に取り付ける
その模様がNHK放送局に取材される



4月20日

高知市立新堀小学校において海の環境学習会を開催

内容については月灘小学校での講演と同じ

於：高知市立新堀小学校 10:50～12:30PM

対 象：5年生児童

4月14-23日

NHKの取材を受ける

5/5子供の日の7:30-7:55AMにNHKの全国放送で「春の日本列島水中紀行（仮題）」と題した、全国各地の春の海の表情を伝え、かつ海のすばらしさを子供たちに伝える活動を行っている人を紹

介するという特別番組に出演

1-3行政・関係諸機関への働きかけ

5月22日

立川 涼（高知大学長）・村瀬儀祐（高知大生涯学習センター長）・中川香代（人文学部経済学科助教授）に黒潮実感センターの支援を要請

6月1日

TaKaRaハーモニストファンドより研究助成金（50万円）の贈呈を受ける

7月4日

黒潮実感センター設立準備委員会を発足し、第1回総会を開く

会長：池 澤宏（前大月町長）；副会長：新谷速男（前大月町教育長）、山岡耕作（高知大学海洋生物教育研究センター長）、亀尾猶蔵（柏島漁協組合長）；事務局長：神田 優（高知大・高知医科大非常勤講師）他9名

8月19日

柴岡邦男（現大月町長）に黒潮実感センターの構想の説明をし、高知新聞社の取材を受ける（8月21日の高知新聞に掲載される）

8月26日

黒潮実感センター設立準備委員会のホームページを開設し、活動内容や各種イベントの紹介をおこなう

9月3日

NHKラジオ第1おはようネットワーク四国で、エコミュージアムとしての黒潮実感センター構想について語る

9月22日

日本魚類学会年会（於：高知大学8月18～21）において、学会員を対象に柏島ダイビングエクスカージョンを開催し、ダイビング後地元の人たちと懇親会を企画するが台風7.8号接近のためやむなく中止する

9月～3月

大月町議会議員16名全員に個別に「黒潮実感センター」構想の説明をし協力を要請する

10月10日

月刊ダイバー・マリンドIVING・ダイビングワールド3誌に第1回海洋セミナー柏島の結果と、黒潮実感センターの紹介記事が掲載される

10月15日

広報「おおつき」に第1回「海洋セミナー柏島」の結果と黒潮実感センターについての紹介を掲載

10月15日

高知県の県民からのアイデア募集事業に黒潮実感センター設立案を応募

11月16日

山口水産（地元の真珠養殖業者）からアコヤガイの大量斃死についての相談を受ける

（この問題に関連して、第4回海洋セミナー大月を開催）

11月25日

宿毛青年会議所理事長 濱田利久氏に「黒潮実感センター」構想の紹介と海洋セミナーの案内をする

12月3日

宿毛市教育長 橋本邦彦氏に「黒潮実感センター」構想の説明をし、大月町における環境学習の経過を紹介する

12月7日

大月の夢と教育を語る会に出席
「黒潮実感センター」構想の説明をする

12月8日

宿毛市役所水産課長 高木一成氏に「黒潮実感センター」構想の説明をし協力を要請する
宿毛市と大月町間でもめているスキューバダイビングに関する事項について協議する

12月10日

宿毛ロータリークラブ例会にて「黒潮実感センター」構想について講演を行い、協力を要請する

12月

黒潮実感センター設立準備委員の委嘱のお願いに上がり、新たに14名が委員に加わる

12月25日

高知新聞に98年支社局が選ぶ5大ニュースに「海洋セミナー始まる」のタイトルで実感センター主催の海洋セミナー大月の開始が掲載される

12月17日

徳島大学総合科学部人間社会学科行動科学大講座助教授 佐藤充宏先生と、柏島における漁業とレジャーとの関係について意見交換し、徳島大学と実感センターと共同で両者の共生について研究する事を確認する

1月10日

月刊ダイバー2月号で黒潮実感センターの紹介が掲載される（問い合わせ多数）

1月13日

大月町企画開発課に来年度の実感センター設立計画書と予算案を提出する

1月19日

第2回黒潮実感センター設立準備委員会総会を開催する

於：大月町役場

参加委員：27名

1月21日

第2回黒潮実感センター設立準備委員会総会の模様が高知新聞に掲載される

1月23日

高知大学黒潮圏研究所主催 公開シンポジウムにて講演する

演題「四国西南端の島・柏島の海中風景」

この中で黒潮実感センター構想について紹介し、大学関係者から協力の申し出を受ける

於：高知市サンライズホテル

1月23日

高知新聞のコラムに「黒潮実感センター」の紹介記事が掲載される

2月6日

高知県政策総合研究所部長の池田 誠氏と県自然保護協会副会長の高橋次郎氏が来所

黒潮実感センター構想について説明し、協力を要請する

2月14日

NHK黒潮報道室から黒潮実感センターについての取材受ける

2月15日

県民のアイデア募集事業に提案していた「黒潮実感センター構想」が採用される（ただし、3提案を含めた特別新規事業「高知フィールドミュージアム計画策定事業費」
として）

2月18日

黒潮実感センター設立に向けての取り組みがNHKローカルニュースで放映される

3月5日

高知県政策総合研究所にて黒潮実感センター構想についての説明と意見交換を行う

メンバー：政策総研6名・教育委員会2名・海洋漁政課1名・高橋次郎氏・NHKアナウンサー1名

3月12日

高知県環境保全課長 坂本 彰氏と県民のアイデア募集事業についての意見交換をする

3月20日

社団法人 西土佐村四万十楽舎オープニングイベントに参加

橋本高知県知事と立川高知大学長に黒潮実感センター構想について説明後、協力を要請する

4月2日

宿毛青年会議所総会において黒潮実感センター構想とこれまでの活動を紹介し、全国地区と四国地区の青年会議所主催のTOYP褒賞へのエントリーを承認してもらう

1-4視察

3月20日

平成9年度生産技術講習会（徳島県水産試験場：日和佐）参加

講演：和歌山県すさみ漁協が経営に関わるダイビングサービス会社「ノアすさみ」について（漁業とレジャーとの共存のあり方についての講演）

講師の松田猛司氏に講演の申し入れをする

3月31日

神奈川県立博物館「生命の星地球館」水中写真データベースの視察学芸員の瀬能 宏氏に「海洋セミナー柏島」講演の申し入れをする

11月19日

千葉県立中央博物館視察

1-5環境保全活動

6月6日

サンゴ食巻き貝ヒメシロレイシガイダマシ駆除作戦（大月地区パークボランティア・環境庁共催）に参加する

2-1魚類相調査

昨年度は以下の魚類を新たに確認した。

ハゼ科ウミシヨウブ属	1種
ガラスハゼ属	1種
トンガリハゼ属	2種
ベニハゼ属	1種
シロズキンハゼ属	1種
クロユリハゼ亜科	1種
クロユリハゼ属	1種
オニハゼ属	2種
ヤツシハゼ属	5種
サルハゼ属	1種
ダテハゼ属	1種
ベラ科オグロベラ属	1種
ハタ科イズハナダイ属	1種

ナガハナダイ属	1種
ベラ科ニセモチノウオ属	1種
イトヒキベラ属	1種
オハグロベラ属	1種
アゴアマダイ科	
アゴアマダイ科	4種
キンチャクダイ科	
キンチャクダイ属	1種
ネズッポ科	
コウワンテグリ属	1種
イズヌメリ類似種	1種
フサカサゴ科	4種
ハオコゼ科	1種
イザリウオ科	
イザリウオ属	1種
スズメダイ科	
マツバスズメダイ類似種	1種
オビトウカイスズメダイ類似種	1種
コガネスズメダイ類似種	1種
スジスズメダイ類似種	1種
ウツボ科	
シノビウツボ類似種	1種
ウミヘビ科	
ヒモウミヘビ類似種	1種
イレズミウミヘビ類似種	1種

以上を新たに確認し、そのうちの数種については現在新種記載中である。

2-2アオブダイの左右性に関する研究

アオブダイの左右非対称性と左右性

（目 的）

近年、アフリカ・タンガニイカ湖産鱗食性カワスズメダイ科魚類で、口部における左右性の存在が明らかになった。この現象は特殊な摂食様式を持つ魚類だけでなく、魚類全般に見られるものと推測されるが、これらの点に注目した海産魚の研究は、現在のところまで全く見られない。本研究

で用いたアオブダイは岩やサンゴの表面の藻類を削り取って食べる藻類食者であり、摂食の際、基質に対し偏った方向からのgrazingを繰り返すとされる。そのため、本種の摂食に関わる器官の形態には左右で差異が見られる可能性がある。本研究では本種の左右非対称性と左右性を、形態学的側面より明らかにする事を目的とした。

（方 法）

供試魚には高知県大月町柏島で簗を用いて捕獲され、10%ホルマリンで固定されたアオブダイ11個体を用いた。ノギスを用いて、全長、標準体長、頭長、体高の測定を行った後、歯骨と前上顎骨を摘出した。次に、繋がったままの神経頭蓋と脊椎骨（以下頭部とする）、左右の懸垂骨と角骨を摘出した。摘出した各部位は観察とスケッチを行い、デジタルカメラで撮影した後、計測を行った。その計測値を用いて頭部は接合の曲がりやを、その他の部位は左右を比較し、各部位の関連性を求めた。

（結 果）

頭部の腹面からの画像を処理して検討した結果、頭部の接合は左右どちらかに曲がっていることが明らかとなった。頭部の接合の曲がりやは体長とは無関係で左右性の判別も容易であった。この左右判別をもとに左右の歯骨、前上顎骨の摩耗度、角骨、懸垂骨の測定値を右利き左利きに振り分け、Mann-WhitneyのU検定を用いて比較したが、有意差は認められなかった。また、頭部の接合の曲がりやと各測定値との関連性も認められなかった。しかし、摂食に直接関わる歯骨の摩耗や角骨は左右非対称であった。特に、歯骨は前上顎骨よりも左右の摩耗の違いが明瞭で、判定材料として適していることが明らかになった。

大月町 柏島 初の海洋セミナー

人に紹介する「第一回海洋セミナリ 柏島」が二十二日夜、睡多郡大月町柏島の柏島公民館で開かれ、住民ら約八十人が参加した。

同町の豊かな環境を多くの人に実感してもらおうと、環境を生かした教育研究機関「黒潮美感センター（仮称）」を柏島に建設し、よとしており、取り組み

魚類生態調査など大学研究者らでつくる「黒潮実感センター設立準備委員会」の一環として毎月一回、ヤミナーを開くことになった。

の主権。同準備委員は高知大海洋生物教育研究センターの山岡耕作所長や、同町で魚類の生態研究を続けている高知大・高知医大非常勤講師の神田慶三(さん)ら十

この日は、東大大学院農学生命科学研究科の佐野光彦助教授が「造礁サンゴと魚のかかわり」と題して講演。沖縄県西表島でオニヒトデが大発生し、さんご礁

て紹介し、「サングを保護することは、漁業対象魚も含めて多くの魚を保護することにつながる」と話した。

参加者は「養殖業が盛ん

だが、さんご礁への影響はあるのか」「環境を保護するためにダイバーとしてで

きることとは何か」などと熱心に質問していた。この後、神田さんが黒潮実感センターの構想について話し、住民に理解と支援を求めた。

東京大学助教授の佐野光磨さん

★サリシニ保護するに
とて、檢察府に申された
との急電が通つたといふ
ものがある。東京大工
学院博士、生物科学研究
教授佐々木光弘さんが
「救済光栄光栄さんへ」
千原操公使に宛てて來着。鶴
多郎大司馬が喝かれたといふ
第一回函館サリシサリ
展「二階下」一遊園サリ
シ光栄のかがわつ」と題し
て「救済」

▼薩摩は類人猿學。昭和
五年代、神田御西長高等
オニシテが大量発生し、



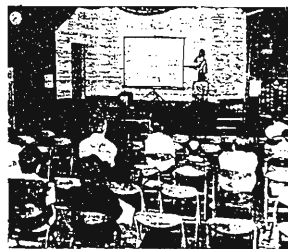
「第一回海洋セミナー 柏島」で講演する佐野光彦さん
(大月町の柏島公民館)

いが出た。ところが、現物調査でも、現物

入る一面が海なので、
 会場について、かなり重要
 な利便を有しているが、
 科学的に立証するのが目的
 の、及ぼす影響が、生きた
 たまごの雌と成魚が、われ
 ども、父娘になった。この
 とき、生魚は雄は三倍以上
 二個、雌は十個以上の獲
 得が完了した。男の獲り
 は十三個、女の獲りは十
 二個に減った。男の獲り
 には、雄の海がきれた。た
 らし、我々を人殺しの環境
 として扱ってしまふ。日
 中、中絶の海で遊んで、
 女は、生魚は雄は三倍以
 上、二個、雌は十個以上の獲
 得が完了した。男の獲り
 は十三個、女の獲りは十
 二個に減った。男の獲り
 には、雄の海がきれた。た
 らし、我々を人殺しの環境
 として扱ってしまふ。日
 中、中絶の海で遊んで、

[illegible]

大月町で海洋セミナー



大学の研究者が海洋生物の生態なら地域住民に目をそらし、開いた。今紹介する「第1回海洋生物」大月が日夜、雑多な町でかれこれ釣る魚類、町中央の魚類、町外れの魚類、生熊調査など研究者をつくる「黒潮感センタ」設立準備委員会（会長栗岡邦男・大月町長の主眼）を紹介した。

同僚(妻)は知大の学生、神戸人は本ニューギニア・リンク客からアフリカのハタテハチを一人だけ高バジに、柏島と発見されたところのその名付いたカワウソオハラダイなど、さまざま魚類の生態を説明。それら住民とも興味深そうに見守っていた。

木タテ貝育成 技術など紹介

30日 大月町

幡多郡大月町の豊かな海洋資源などを生かす「第三回海洋セミナー」が23日、同町弘見の町中央公民館で開かれた。

高知大学海洋生物教育研究センターの主催。セミナーは、関係者らでつくる「黒潮実感センター」設立準備委員会が今年から定期的に開いているが、今回は高知大の公開講座として開催する。

当日は午後七時から同九時までの間、北海道大水产学部五輪船船政教授が「木タテ貝漁業に生きたるを生かす」と題し、大学などの調査や研究が漁業生産にどのように役立っているかなどを紹介する。

北海道の木タテガイ生産額は年間約五億一千三億円で上り、同県備前などは「不漁が続く黒潮漁業に活路を開くにはなれば」と参加を呼び掛けている。

問い合わせは柏島中学校の黒潮実感センター設立準備委員会事務局（0880-76-0000）。

宿毛市

大月町

- ① 林市が6選 任期満了に伴う市長選挙が11月に行われ、林氏が6選を果たした。
- ② 重油流出で除染作業 7月に行われ、新入の黒潮実感センターの流出重油が10月、宿毛に接近し、除染作業が開始された。
- ③ 中筋ダムが完成 平田町に建設していた中筋川ダムが完成、8月に完成式が行われた。
- ④ 佐渡ヶ原部農産物 佐渡ヶ原部農産物から25人が6月、宿毛を訪れ、公開買い付けが行われた。
- ⑤ 沖の島でグリーン作戦 沖の島で6月、大規模な鳥



⑥ 海洋セミナー始まる 黒潮実感センター設立準備委員会が7月に発足、海洋セミナーが始まる。

～四国・柏島発～

「黒潮実感センター」 設立を応援 してください！



黒潮実感センター設立準備委員会代表 神田さん

最近注目を集めている四国・柏島から神田さんが編集部を来訪してくれました。高知大学で海洋生物の研究をしている神田さんは、四国の自然を守りつ、人間と自然が調和する方法を伝ようと「黒潮実感センター」という、環境学習を基軸とした自然史系博物館を設立しようとしています。しかし、不況下で予算がなかなか下りず設立計画が難航しており、一般市民及びダイバーに広く協力、援助を求

めています。

「僕は現在、四国の柏島中学校に間借りしながら「黒潮実感センター」の設立に向けて準備をしています。センターの計画や準備をしながら、中学や小学校の子供たちに環境学習の授業を行っています。環境学習と言っても僕がしているのは、体験と学習の両面から学ぶ授業です。これまでの環境学習では自然のメカニズムを理解する段階で難解な部分が多く、心から自然と親しみ、自然への理解を深めるという、環境学習を基軸とした自然史系博物館を設立しようとしていますが、不況下で予算がなかなか下りず設立計画が難航しており、一般市民及びダイバーに広く協力、援助を求

める多くの人が柏島の海の環境を体験することで、より一層現実味のある興味を持って、自然との関わりを考えたいと思うからです。地元漁師さんや、栽培漁業（養殖）の人にも、環境保全の考えや魚類の生態を知ってもらうことで、漁業にも自然にも双方方向にプラスとなる情報の交換ができるのではと考え

ています。

海の近くで生活している人の全てが海中環境を知っているかというところでもなく、海の中をのぞいたこと全くなかったという人が大半ですから、地域住民に対して海をガイドやビデオを通して海のセミナーを行っています。そうすることで、ひとりでも多くの人に海の大変さを知ってもらいたいのです。さらに海の理解を深めることから環境保全の考えを広げていきたいと思っています。サンゴの話を魚類の話をさまざまなセミナーを企画しているのですが、僕のセミナーの案内は柏島のダイビングサービスに協力をお願いしていますので、柏島にダイビングに来るときにはご確認のうえ、

都合がつけばご参加ください。

それから、柏島の自然とふれあいながら、体験的環境教育や漁業者と学術研究との接点となる目的、魚類の研究や海洋環境の保全など、多角的な目的に対応できる自然博物館の設立を目指して、設立資金の予算を町役場と交渉していますので、是非、その署名運動にもご協力ください。

興味のある人は「黒潮実感センター」設立準備委員会まで FAX か、Eメールで住所、氏名、連絡先をお知らせください。直接、「黒潮実感センター」設立準備委員会より署名用紙をお送りします」と神田さん。連絡先は左記まで。

■連絡先／「黒潮実感センター」設立準備委員会
〒788-0343 高知県幡多郡大月町柏島625大月町立柏島中学校内
☎0880-76-0026
FAX 0880-62-8000
Eメール/kuroshio@netkochi.jp



「黒潮実感センター」設立へ、11年度の取り組みなどを話し合った準備会の総会（大月町役場）

自然生かす拠点施設に 黒潮実感センター設立準備委が総会

大月町

【高知新聞】大月町の豊かな海。立派な漁業を営む大月町。大月町の豊かな海。立派な漁業を営む大月町。大月町の豊かな海。立派な漁業を営む大月町。

「黒潮実感センター」設立へ、11年度の取り組みなどを話し合った準備会の総会（大月町役場）

開港など昨年の取り組みを報告し、11年度も「黒潮実感センター」の施設や「地元の魚」の活用などについて話し合った。

高知新聞 平成11年 2月 4日

1999年(平成11年) 2月 4日 (木曜日) 地 域 (26) 西南

子供たちに自然の良さを

大月町・宿毛市

西南特集
リポート



大月町で撮影した海中生物の生態を学ぶ児童たち（大月町役場）



大月町で撮影した海中生物の生態を学ぶ児童たち（大月町役場）

魚類の生態など紹介

小中学校で好評
充実させ継続も

地元の海素材に環境学習

宿毛市は、大月町と宿毛市が合併して、大月町・宿毛市となった。大月町・宿毛市は、大月町と宿毛市が合併して、大月町・宿毛市となった。

大月町・宿毛市は、大月町と宿毛市が合併して、大月町・宿毛市となった。大月町・宿毛市は、大月町と宿毛市が合併して、大月町・宿毛市となった。

大月町・宿毛市は、大月町と宿毛市が合併して、大月町・宿毛市となった。大月町・宿毛市は、大月町と宿毛市が合併して、大月町・宿毛市となった。

